

平成 30 年度第 3 回岡崎市子ども・子育て会議 議事録

日 時：平成 31 年 3 月 15 日（金）14：00～15：15

場 所：岡崎市役所分館 202 号室

出席委員：12 名

大岩みちの（会長）、大西泰子、竹内範子、中根よし子、安藤徹也、
長坂尚希、水野周久、磯貝泰隆、笹部耕司、倉橋加代子、平山香里、
山田安世

欠席委員：3 名

古田学、小田昌男、猪飼由美子

傍聴者：2 名

1 開会

2 議題

(1) アンケート結果報告について

(2) 量の見込みの算出について

3 その他

(1) 病児保育について

(2) 岡崎区域における新設保育園の整備について

4 閉会

《主な質疑、意見など》

議題 (1) アンケート結果報告について

事務局から資料により説明

委員： 保護者から保育施設の充実が求められている一方で、仕事に不満を感じている保育士がいます。どのような対策を考えていますか。

事務局： 採用を増やす、清掃などの仕事は外部に委託する、シフトに配慮する、書類作成方法を工夫するなどの対策をしています。今後も、保育士の職場環境が少しでも良くなるよう努力していきます。

会長： 保育士不足を解消するため、様々な努力をされていますね。他の自治体も保育士不足の現状に悩んでいると聞きます。書類作成については、単に簡素化するのではなく、質の確保のためにも必要なことが適切に伝わる方法を検討していただきたいと思います。

委員： 104ページ「今の職場・施設について、改善が必要だと思う箇所や不足していると思うことは何ですか？」という設問に対して、「教室・保育室やほふく室の改修」「おもちゃや絵本等の教材の不足」の回答割合が高くなっています。今後の対応策はどのように考えていますか。

事務局： 毎年度、予算で修繕費・消耗品費は確保しています。修繕については、重要度の高いものから順に進めることを意識しています。消耗品費については、必要なものから順に買っていただくなど、各園でやりくりをいただいています。

議題 (2) 量の見込みの算出について

事務局から資料により説明

委員： 潜在家庭類型の数値で算出すると、現状とニーズがかい離するということでしたが、現在家庭類型と潜在家庭類型で数値が大きく異なるのは何らかの理由があって希望どおりになっていないということだと思います。希望どおりにならない理由を取り除くために、市がどのような計画でどのように障がい解消していくのかという指標があれば目標量が設定しやすいと考えます。今回の潜在の数値に対して、どれくらいが計画として考えられているものなのか、今後まとめられるのでしょうか。

事務局： 現在家庭類型と潜在家庭類型の数値に差はありますが、資料2の4ページを御覧いただくと、著しい差は生じていないことが分かるかと思えます。ニーズ量の算出が現状の必要量より過大な数値になってしまう要因は、利用意向率の算出方法にあると考えています。今後は、各事業の必要量を適切に見込んでいくことが重要であると考えています。

会 長： 資料2の1ページに掲載があるとおり、国のワークシートを用いて算出されているということですが、現状にそぐわない結果となるという理解でよろしいでしょうか。

事務局： はい。ニーズ量はいくまでも参考とし、今後検討していく目標事業量については、各自治体の判断によるとされています。その際、資料1のアンケート調査結果は貴重な資料となると考えています。

その他

事務局から資料により説明

委 員： 病児保育について、生活保護世帯のお子さんが利用した場合の使用料はどうなりますか。また、最大使用可能日数等は決まっていますか。

事務局： 生活保護世帯のお子さんが利用した場合は、軽減制度がございます。また、使用日数等細かい部分については、今後検討する予定です。

閉会 (15:15)